

医学部後援会

8月4日(木)午後6時から、東京ガーデンパレスにおいて、代田浩之医学部長主催の、同窓会、父母会、後援会の合同懇談会が開催され、当会からは、古川会長、中村出副会長、河本監事の3名が出席しました。

後援会からは、最初に、本年3月卒業生の父母の後援会への入会状況について、卒業生108名中58名の入会があったことを報告し、入会率向上のため父母会に協力を要請して快諾を得ました。

次に、今年度の事業として、卒業後10年前後の後援会員の子弟を対象にした「地域医療・学術奨励賞」の第8回目の募集を行うことを報告し、大学、病院、同窓会に対し、募集要項の周知に関する協力を依頼しました。

ちなみに、同賞は、毎年、最大で3名の受賞者を選定し、表彰状と報奨金20万円を贈呈することにしており、過去7回の募集には16名が応募され11名が受賞されています。

更に、熊本地震に関し、大学が募集した熊本地震義援金に応募して、後援会から50万円を拠出したことを報告しました。

合同懇談会に出席させていただき、代田医学部長から、順天堂大学が「本郷・お茶の水キャンパスの物的な施設の充実のみならず、教育、研究、診療において目覚ましい成果をあげている」とのお話をお聞きし、大変嬉しく誇らしく思うとともに、後援会も、同窓会、父母会と連携して順天堂大学のため、子弟のために活動していくことに存在意義があることを改めて実感しました。

(医学部後援会 会長 古川 善博)

スポーツ健康科学部後援会【桜順会】

◆第38回桜順会定例総会から

今年の総会の議題の一つとして会員の高齢化等に伴う会員数の減少があげられました。

引き続き佐久間和彦先生に『リオオリンピック陸上競技を100倍楽しむ方法』というテーマでご講演いただきました。卒業生も多数出場しているオリンピックだけに関心が高いわけですが、まさしく超人の世界であり人間の限界をどこまで高められるのか、オリンピックは人々の夢を掻き立てるイベントであることを改めて教えていただきました。



総会の様子